

## 廣井敏男先生退任記念号の発刊によせて

廣井敏男先生は自然科学者である。それも生物学という学問研究分野もあって、書齋や研究室にとどまることのない、行動的な自然科学者である。それは、トトロの森の環境保全の責任者として廣井先生のお名前が広く社会に知られていることから明らかである。

1957年に東京教育大学理学部生物学科を卒業され、都立高校で理科を教えていられたが、研究への情熱を絶ち難く、1959年に東京大学大学院生物系研究科植物学専攻に入学された。そこで修士号、博士号の学位を取得され、助手を勤められた後に、1969年に東京経済大学に赴任された。以降35年の長きに渡って、「生物学」、「生物化学」の他に、「環境問題と政策」、「地球環境学」など、世界が抱える重要な問題についても教えてこられた。

社会科学系の総合大学として発展した東京経済大学において、自然科学者としての廣井先生は、きわめて貴重な存在であった。もちろん、学生諸君も廣井先生の現場を踏まえた「生物学」や「環境問題と政策」などの講義に魅了され、毎年のように受講者は多く、ゼミも定員を超えていた。そのことは、先生の学識だけでなく、教育に対する熱意を学生が感じ取ったからに他ならない。

廣井先生は、教育活動や学外での重要な社会活動で多忙を極めておられたのにもかかわらず、1989～1992年まで長期にわたって学生相談委員会委員長をつとめられ、1992～1994年には短期大学部長、入試本部副本部長、理事と学内行政にも尽力された。その時期は、大綱化にかかわる一般教育の改革とコミュニケーション学部立ち上げの時期と重なっていた。

廣井先生は、多忙を極める要職であったために、一時期体調を崩された。私たちは一般教育の舵取りを見失ったような不安な気持ちで、先生のお元氣な復歸を待った。お元氣になられた廣井敏男先生は、一つ一つ懸案事項を確実に処理されていった。想像するに、最もご苦勞なされたのは、一般教育の教員の中からコミュニケーション学

廣井敏男先生退任記念号の発刊によせて

部に移籍させる教員を選び、説得することではなかったかと思う。仄聞したところによれば、私がコミュニケーション学部への移籍を「業務命令」として承諾したことに、廣井先生がため息をついて安堵されたとのことであった。私は、今、先生にご苦勞をかけたことに深くお詫びする次第です。

廣井敏男先生の益々のご活躍と、ご健康を祈念致します。今後とも宜しくご指導のほど、お願い申し上げます。

2005年1月

全学共通教育センター長 藤澤 房俊